

るか、書いてもらうことにしました。腎・ネフローゼの低学年では、受容的、構成的活動が多く、続いて、模倣想像的活動がみられました。高学年では、受容的活動が、圧倒的に多くみられました。喘息病棟の低学年では、模倣想像的活動もみられましたが、腎・ネフローゼよりは少なく、運動的活動が多くみられました。高学年では、やはり受容的活動が多くみられましたが、運動的活動も略ぼ同じ割合ででていました。筋ジス児（者）における、活動傾向と比較してみると、筋ジスの小学生高学年から中学生でも、まだ模倣想像的活動はみられていました。構成的活動は、他疾患では、年齢と共に増えていましたが、筋ジスの場合は、減っていく傾向がみられました。

同じ病院生活を送っているとはいえ、それぞれの疾患によって、生活形態は異なり、比較したものが、妥当であるかは、疑問のところですが、これらを参考にして、筋ジス児（者）のおかれている時間の条件、環境的条件を調査すると同時に、彼らが、充実した余暇時間を送るためには、どのような援助がより有効的であるか検討していきたいと思います。

13) 患者の職業の興味についての一考察

国立療養所八雲病院

桜田 裕 藤島 慎一
大友 政明

当院は筋ジストロフィー症患児（者）120名を収容しており、年齢層も高くなってきており、入院年数も10年を越える患者もおります。彼らの要求も種々高度複雑になってきており、それらを理解する意味からも患児（者）の職業興味について検討してみました。

実際に彼らが職業に対してどのような興味を持っているのか、どのような職業を希望しているのかを理解し、作業指導、趣味活動の拡大を計るため、または適切な施設への転所等、患者の要求に対応することを目的としております。

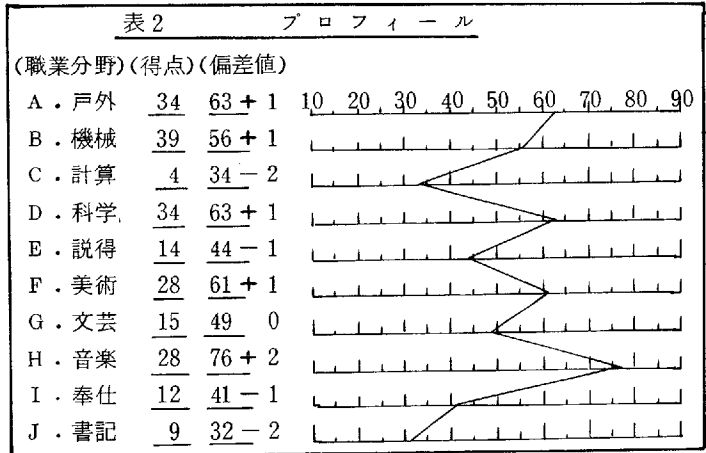
対象としてはD型以外の義務教育修了者で社会復帰の可能性があるとされる患者です。

方法としては、田研式の職業興味検査を使用しました。興味分野は大別して、戸外・機械・計算・科学・説得・美術・文芸・音楽・奉仕・書記以上10名の興味分野について本人の興味程度が発見できるよう設定されております。表1、それに基づいて各分野の得点のうち65以上のものは、積極的に好きな分野であり段階としては+2になり、同様に最低35以下は段階-2で好きでない分野であります。留意点としては偏差値が35以上でないということは、それに興味を持っていないということではなく、現在はそれ以下の興味を持っているということ

(偏差値)	(段階)
65以上	非常に興味がある +2
55~64	興味がある方 +1
45~54	普通 0
35~44	興味がない方 -1
34以下	非常に興味がない -2

であります。これらを留意点として事例報告いたします。この患者は入所年数4年、年齢32才の男性で病名は肢体型であり、入所前は洋裁店に勤務しており、本人の職業の希望としてはミュージシャンになりたいとの希望であります。戸外は34機械39……書記9であります。

これらの得点から偏差値に換算すると戸外63機械56……書記32となり、これら偏差値をもってプロフィールに表わしたのが表2の右の表です。これを見ると最低興味は書記に属し最高は音楽に属することがわかります。これを前の5段階に区別すると+2は音楽、+1は戸外……説得、奉仕は-1、-2は計算、書記という結果になります。



す。即ち音楽、戸外は積極的に好きであると認められ、計算、書記に属する興味は極めて少ないと認められます。このような興味傾向を有するものを探してみると〔音楽-戸外〕〔音楽-機械〕等にその類型をみいだすことができます。即ち、舞踏教師、ラジオ技術員、音楽効果係に興味の傾向が向かっていることとなります。逆に興味のないものとしては、〔計算-書記〕をみると会計士、計理士統計学者等の職業に興味がとぼしいことがわかります。全体的に判断してみると、患者の職業に対する期待・希望とか検査結果との比較においては大部分が一致した傾向が表われてきています。これは、生活範囲の狭さ、長期療養からくる社会経験不足による結果なのかという問題点があります。この問題点については、他の同年齢層の一般人と比較検討を行なえば、この問題の解決になるように思われます。最後に患者の希望する職業、趣味活動が授産施設ならびに病棟生活に結びつかない傾向にあるといえます。たとえば電気関係に興味があっても院内でそれらを指導することは困難であり筋ジストロフィー患者を収容する授産施設は限られている現状です。

以上の点が結果として掲げられますが今後さらに詳細にわたって比較検討をしていきたいと考えております。

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

当院は筋ジストロフィー症患者(者)120 名を収容しており、年齢層も高くなってきており、入院年数も 10 年を超える患者もおります。彼らの要求も種々高度複雑になってきており、それらを理解する意味からも患者(者)の職業興味について検討してみました。